

10月には人間の心身が一番弱ると聞いたことがあります。秋の過ごしやすい時期に、意外な気がします。夏の暑さから冬の寒さへ、適応と変換がまだできていないために、調子を崩しやすいそうです。11月に入ると、徐々に慣れ、冬至を迎えるクリスマスには一陽来復、新しい力が宿るとか。どうぞ人と比べず無理をせず、穏やかにお過ごしください。

逆転の発想

エルサレムへの旅の最後の部分は、世の中の常識を覆す、主のメッセージが幾重にもかさなって書き留められています。そのエッセンスを一言で表すなら、「人にはできないが、神にはできる」というメッセージです。ですから「高ぶるものは低くされ、へりくだるものは高められる」と14節に述べられているのです。

大人になるということは、善悪の判断ができるようになること、危険と安全を見分けることができるようになることです。知識、権力、財力、人脈を身につけて、家庭を守り、社会を動かして行くことができるようになることです。そのためには、努力と訓練、忍耐と勉強が必要です。しかし、大人になって、本当に知らされることは、自分が登り詰めたところに来て、実はまだその遥か高いところに世界の山は高くそびえているということです。しかも、そのスケールの大きさと比べて、自分自身は以下に小さく、弱い存在であるかということなのです。幸せをつかもうと自力で頑張ってもダメなのです。

イエス様の教えは、世の中の常識を覆す、逆転の発想です。「神の愛を信頼しなさい」「受けたものは与えなさい」という真理です。ただ、それは人間にとって、自分が経験してきたことと正反対を言われているようで、どうしても簡単に「はい」とは言えません。難易度は「ラクダが針の穴を通る方が簡単だ」とイエス様が言われるほどです。

永遠の命を受け取る

大金持ちほど、人に羨まれる存在はありません。しかし、イエス様の前に出てきた議員は、非常な悲しみにくれたとあります。恵まれている人ほど、幸せになることが難しいという現実が浮き彫りにされたのです！彼にのしかかっていたのは、イエス様の言葉でさえ、簡単には救えない、難しい問題でした。確かに、ファリサイ派の人よりも徴税人が、大人よりも子どもが、金持ちよりも貧しい漁師が、神の国の救いの喜びを手に入れました。

私たちはどうでしょうか。「人にはできないことも、神にはできる」というこの単純な言葉を、信じて受け止めることはできるでしょうか。死を打ち破る復活の奇跡、罪を贖う十字架の愛、皇帝の前にも屈しない救い主の信仰が、「神にはできる」と証しています。

岡山先生が語られたニコデモは、この永遠の命に与った幸いな人のモデルです。そして、この後の19章に登場する、ザアカイも、本当の喜びを体験した、幸いな人です。私たちは、ニコデモのように、ザアカイのように、生きようではありませんか。

神の力は「ラクダが針の穴を通るよりも難しい」頑なな心さえ、見事に新しく作り変えてくださいます。私たちも、同じ祝福に与ることができると主の愛によって信じます。